



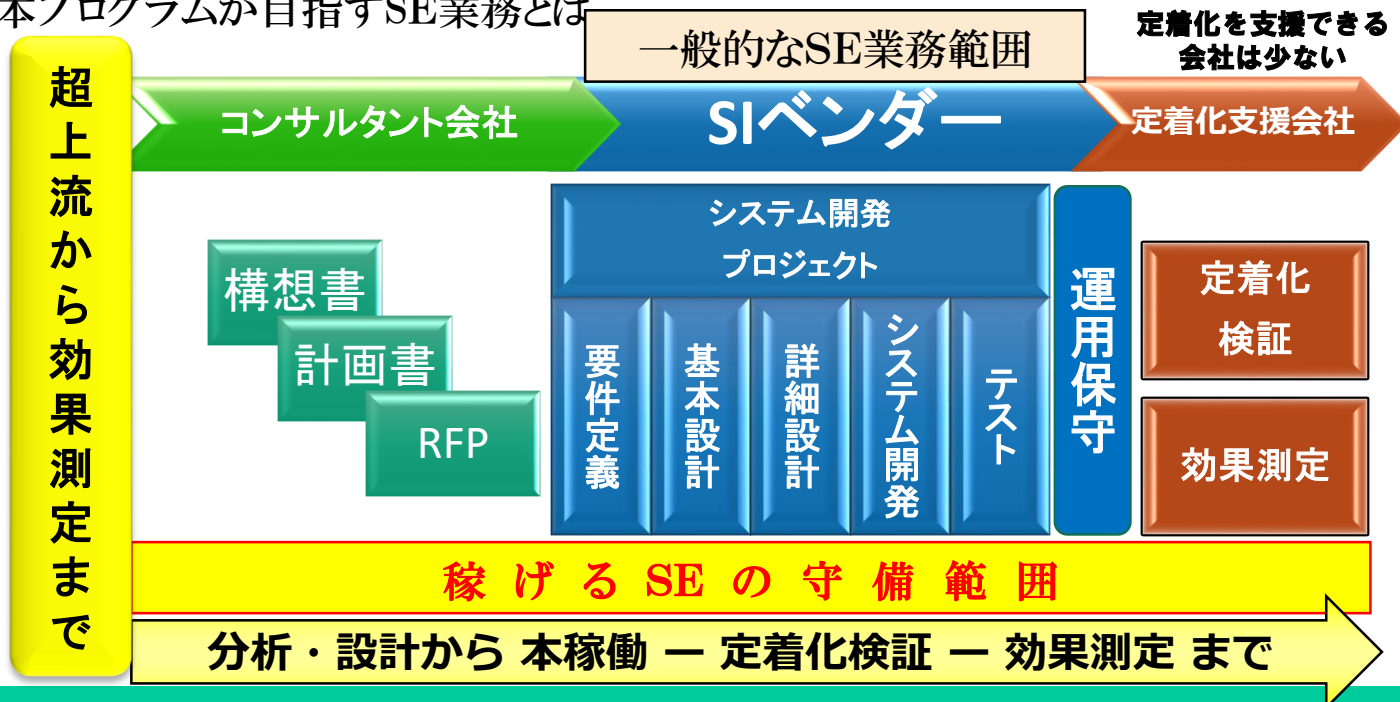
第30回 稼げるSE養成講座

コンサルタント領域をSE領域に取り込むSE育成

受講対象者 (実務経験3年以上のSE、及び幹部社員。)

- ①「御用聞きSE」では、工数ばかり掛かって、顧客に利益をもたらさないと感じている方。
- ②ERP更新期だが、新たなERPを選択しても、顧客利益に繋がらないと感じている方。
- ③ハード・ソフトを何度も入れ替えたが、顧客利益には、繋がっていないと感じている方。
- ④顧客要望が、間違っていると感じるが、「正しい仕組」をご提案できないと感じている方。
- ⑤大半の業務をICT化したが生産性向上、欠品発生が改善されず品質・生産性向上も、無いと感じる方。

本プログラムが目指すSE業務とは



日時・開催方法

- 日時 : 2021年12月6日～2022年3月14日 毎週月曜日 全12回 13:00～17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)
- 方法 : ZOOM採用 (定員5社 限定)・・・マンツーマンの塾運営を目指しています。(卒業生300名以上)
- 受講料 : 15万円(税別)／人(「厚生労働省人材開発支援助成金」の対象講座。(約4割程度の助成金を受けることが出来ます)
(参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#) 不明点はお問合せください)
- 申込締切日 : 2021年11月5日(金曜日) 助成金申請のため締切日遵守ください(*申請手続きは、お手伝いします)

本講座の体系ー「稼げるSE養成講座」は以下の3つのコースがあります。

1. 原理原則編 (今回ご案内)

2. 分析設計編

3. 定着化／効果測定編

1. 各種管理の各業務毎の正しい目的・方法手順を体系的に取得できる唯一の講座
2. 現状分析から基本設計・RFP作成を行い、顧客の基準標準化を指導できる技術を取得する唯一の講座
3. 定着化・効果測定技術を取得する、唯一の講座です。

【本講座の特徴】～標準化の実務演習が大人気～

「実際原価」は
ウソの原価です！



リアルタイムで

- ①質問も出来る
- ②講義中の回答記述も講師側から把握。添削できる。

※口頭でのご質問、質問カードによる講義割込み
※受講者の演習記述の進捗を講師が把握し助言する

ライブ配信

① 受講者の表情を読みます
モニタリング係が
受講者の表情を読み
お声がけを行います

個別ライブ配信

② マンツーマンで、
ご希望により、
定期補講・随時補講
を行います。

録画配信

③ ホームページから
視聴できます
1週間以内の講座を
自由に視聴

「管理技術」を使えば、自社の基準・標準化は、容易に実現できる！
一標準化の「実習」が大人気ー（下記の一つを選択）

作業標準の設定

工程管理の基本である作業標準・標準時間の設定を作業分析ソフトを使用して特定品目の設定を演習します。

ロケーションの設定

保管管理が不備では在庫管理は出来ない。御社の倉庫を対象にロケーションを演習で設定します。

原価チャージの設定

「時間当たり単価」の設定が出来てない企業が多くなっています。御社のチャージ（賃率）設定の演習をします。

部品表(BOM)の設定

部品表は、生産管理の要！でも作成方法が分からない、難しいと考えている方に御社の製品を基に演習をします。

「受講者の声」

大手ITベンダ(大阪)取締役部長

2年目の新人と共に、『顧客に利益をもたらす生産管理の考え方』を学ぶため参加させて頂きました。

社員はシステム設計開発に従事していますが、顧客視点で業務の本質を改革する機会は少なく、非常に良い勉強になりました。

弊社は、関西地区に7か所の事業所を抱えますが、それぞれ管理技術を習得することが必須となっております。今後、弊社メンバーに本講座を受講させ、SE技術者としての真の実力アップを図りたいと思います。

中堅ITベンダ(東京) SE課長

先生の皆さんは「御用聞きSE」との指摘は当初は反感を持ちましたが、20年間の経験を顧みますと、ご指摘通りで反省しました。

確かに顧客様のご要望には間違いが多くあり管理技術でのご提案に確信が持てました。

大手ITベンダ(名古屋)SE課長

月曜日に受講し火曜日に「課題の提出」は、きつく、最初は脱落しそうになりました。

予習の重要さと受講時の姿勢のご指導を受け「正しい方法手順」で受講する事により当日中の「課題提出」が容易に出来ました。

「間違ったことを懸命にやる」事の問題を実感出来、管理技術の正しい方法手順を顧客にご提案する事の使命を認識出来ました

稼げるSE養成講座

～システム作りで顧客に利益をもたらすSE

1. 講義

2. 事例

3. 演習・実習

教材について

1. 業務知識編：「管理技術」の前に、「業務知識」を習得頂きます。業務・組織形態から、一般企業の歴史を学び、その知識から顧客のレベルが判断できます
2. 管理技術原理原則編：管理技術を体系化し、検証された技術のみ網羅されたTEXTで顧客の課題解決のノウハウ集です。
3. 学習ライブラリ：有償版ですが、受講期間中は使用できます。座学では理解しづらい項目について、受講者が実際の数値を入力し結果を検証できるようになっています。
4. 毎回の補助教材：受講者のレベルに応じて、また受講者からの要望で、補助教材を提供しています。
5. 「実習」参加者は、必要に応じて「作業分析ソフト」等の、実習に必要な機材・ソフトの貸与があります。

A. B P Rの成功は、S Eの基準・標準化の顧客への正しい指導により実現される！

基準・標準化の体得

- ①作業標準・標準時間の設定
製造業・土木建築業・農業他、人が動き成果物を生み出す業種には、必ずベテランと素人が存在します。
全員をベテランにするのが、作業標準です。これが存在しない現場には、「工程管理」は存在しません。
- ②在庫管理には、ロケーション管理が前提になります。「実習」でこれを習得します。
- ④原価管理で習得しづらい「チャージ計算」を「実習」で取得します。
- ⑤多品種生産時のB O M構築を「仕様展開技法」で解決する方策を「実習」で取得します。
- ⑥購買・外注・工程の各種リードタイムの設定方法を「実習」で取得します。
- ⑦安全在庫・発注点在庫の設定方法を「実習」で取得します。

儲かる仕組を顧客に提案できます。

- ①生産計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ②購買計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ③製造計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ⑤在庫低減・棚卸に合理化を事例を通じて取得します。
- ⑥工程管理で生産性を向上させる技を事例を通じて取得します。
- ⑧品質管理の日程化、合理化を事例を通じて取得します。
- ⑨B O Mの百分精度と多品種のB O M構築の技を事例を通じて学ぶ
- ⑩原価管理の革新（原価低減）を事例を通じて取得します。

受講者に「熱意」があれば、「塾」は、どこまでもサポートします。

- ①受講期間中、不明点は「補講」で何度でも学習できます。
- ②修了証書受領者は、「再受講制度」により、無償で何度でも再受講できます。
- ③講師は、B P R構築の熟達者で、「先輩が後輩を育てる」事が塾の目的です。
「話は下手」でも、受講者の「分からない事」には、納得頂けるまでサポートをします。
- ④現実の顧客サポートの課題を「個別相談」で解決できる体制があります。
—700社以上のB P R構築実績があります。そのノウハウを利用ください。
- ⑤再受講制度（無償）を利用され、3回受講されている社長様がいらっしゃいます。何度でも再受講可能です。

B. 厚労省助成金対象講座です。

96%の受講企業が、助成金を申請受領されています。（詳細は別紙）

厚労省
「人材開発支援助成金」対象講座

お申込みはこちら

<https://kan-lab.sakura.ne.jp/postmail/askjyuku.html>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。

申込締切日：11月5日（金）

貴社名（必須）	ふりがな
ご住所（必須）	
TEL（必須）	FAX
部署・役職名	
ご芳名（必須）	ふりがな
E-Mail（必須）	
部署・役職名	
ご芳名（必須）	ふりがな
E-Mail（必須）	
部署・役職名	
ご芳名（必須）	ふりがな
E-Mail（必須）	

【お客様の個人情報の利用目的】

お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。

また、第三者にこれを開示することはいたしません。

お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

☐ 同意する

特別講師

細川康秀

社) ABC協会副会長



講師

吉川正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



現日本製鉄の作業長としてライン業務を経て情報システムの大規模開発、1988年以降、中小企業の一括請負システム開発会社、NSA（現ITT）会長、NSSOL、日本情報システム・ユーザー協会副会長、現在ABC協会の副会長に就任。

コンピュータ黎明期から今日まで、鋭い洞察力・発想で日本のICT化のリーダーとして情報化に貢献されてきました。

厳しいご指導の中に、塾生を育成する愛情溢れるお話は多くのファンを生んでいます。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百家の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者（経産省システムアナリスト）

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。厳しき的確な指導には定評がある。（ITTV認定 ファシリテータ）

特許庁登録
「職務分析自動化」
発明者

建設資材業界での実務経験と管理技術の取得により、成型加工、消費財、装置業等々の業務再構築に従事。ネアカの指導が好評。

特許庁登録
「KJ法自動化」
発明者

50年間、数百家に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は千社を超える実績を持つ。IT技術＋管理技術で利益率5割アップの「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間百回に及ぶ。

セミナーに関するお問合わせ先

「塾」の運用企業



一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会

TEL: 03-6277-2055 e-mail: sem@abc-a.jp

<http://www.abc-a.jp/privacypolicy.html>



株式
会社

管理技術ラボ

TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779

URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

1. 教育訓練の目標レベル

具体的な到達目標	・現在の生産システムに携わっている技術者（SE等）は間違っ知識のもとに開発が行われているケースが多く、結果的に当初計画したシステムが構築されることは少なく、効果も効率も目標を達成できていないケースが多い。これはシステムの設計・開発者が生産システムの基礎的知識やスキルはもとより、必須技術である「管理技術」を習得できていないことが、その主たる要因と考えられる。この管理技術を習得することで正確で、効率的な生産システムを設計、開発する能力を習得し、既存システムの再構築という業務も担えることを目標にする。 (管理技術をベースにした、分析・設計・定着化・効果測定技術の取得も含む)
習得できるスキル	・生産システムは元来、工学的な理論に導かれて稼働するものである。その基本となる管理工学、生産管理、原価管理、品質管理などの理論と現場で長年培われたノウハウを形式知化したTEXTを軸に、即、役に立つ管理技術を習得できる研修となっている。 さらに、「基準化」「標準化」が、ICT化の前提であるが、これが準備されていない事が、生産システムの失敗の大半になっている。 これら「基準・標準化」例えば、リードタイム、標準時間等々の設定方法及びBOM等のデータ構築の設定方法も取得できる。 生産システムに必要なICT機能も、習得でき、企業の特性に合致したRFPが作成できる。

2. 教育効果の把握方法（修了評価）

到達目標に対する技術・知識の到達度の把握・測定方法	1. 毎回の「事例演習課題」の発表内容の評価 2. 毎回の「理解度テスト」の提出を求め、その「評価」、満点になるまで、再提出を義務としている。 3. 出席確認は、開始・終了時に「写真撮影」 4. 講義中は、「モニタリング担当」「事務局」が、受講者の「表情をモニタリング」し、理解度を推定し、講師に連絡。講師は、該当者に質問等の声掛け。「声掛け」記録での受講態度測定。受講者に注意勧告。（過去に該当者なし） 5. 5分間以上の「離席」は、再受講をして頂く。「モニタリング係」からの指摘。（過去に該当者なし）
修了認定基準に満たない受講者への措置	1. 出席率100%（欠席時は、再受講を求めています。再受講は無償です）。欠席があれば、修了証書の発行はしない。 2. 「理解度テスト」が満点であること。（再提出回数の制限はなく、受講期間を過ぎても満点になれば、修了証は発行する。 3. 毎回の「事例演習課題」の発表が、80点以上の評価であること。
修了認定の判断基準（出席率、修了テスト等の具体的な判定基準）	1. 前述のように、受講期間を過ぎても、「理解度テスト」は、満点になるまで、再提出を求める。 2. 補講制度があり、無制限に補講は、申し込むことが出来る。（定期補講と随時補講がある）修了認定基準まで、補講を継続し、修了して頂いている。 3. 補講制度 定期補講：講習日の前後2時間は、講師が待機し補講希望者に備えている。 随時補講：受講者の希望時間（主に就業時間外）に、できる限り沿うよう、実施している。 補講はすべて無償としている。

3. 受講の利便性

社会人に対する受講のしやすさ（利便性）を高める工夫	・すべての講義はオンライン・ライブ研修で行われる。 コロナ以前からこの方式を採用し、MAX20人以内の受講生に対し、あたかも1対1かのような講義と、受講者同士の対話や演習を交え、知識とスキルの習得を図っている。（zoomを使用） ①受講者は会社や自宅から受講することができる。②社会人の受講をしやすいするため、1週間に1度、午後の半日（4時間）を受講時間とし、14週間が一つの学習タームとなる。 ③講義の録画をオンデマンドで見ることができる。これは復習にも使用できる。 ④前述の「補講制度」の利用が非常に多い。（受講できない場合は、受講者の時間の都合がつく日時で、補講で必ず受講頂く。）
受講者に対するサポート体制	・①質疑は、メールまたは前述「補講制度」が活用されている。 ②「事務局」が、12時間以内に受講生からの、質疑に回答している。 ③「理解度テスト」「演習課題」の成績の悪い方には、「事務局」から、受講者に「補講」に申し込むようガイドしている。 ④受講中は、「モニタリング係」が、常に受講者の「表情」をモニタリングし、表情の曇った方、睡魔に襲われている方には、講師に連絡が入り、講師から該当受講者に声かけをしている。 ⑤受講者は、チャットでも質問でも質問できるが、「質問カード」をカメラに掲げる事で、講義を止め質問が出来る。また、講師から、講義内容の理解度を受講者に講義中にもとめ、受講者は「理解度カード」を提示することになっている。「理解度カード」は、5点法で3点以下の方が一人でもいれば、再度同じ講義を行うルールになっている。

[稼げるSE養成講座]カリキュラム			
回数	日程	教育名	教育内容
1	12/06(月) 14:00 ～17:00	キックオフ 管理技術による利益の獲得	1. 内容 ①管理技術とは ②管理技術による利益の獲得 ③ERP導入の失敗要因 2. 到達目標 ①管理技術の有用性を理解する ②ICTと業務知識だけではBPR構築は無理な事を知る。
2	12/13(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 (生産計画、資材計画)	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (計画立案・検証方式) ④業務フロー (生産計画－製造・購買計画) 2. 到達目標 生産計画と製造計画の分離を理解し、「生産計画は経営の意思」の設計を習得。 生産計画・資材計画の立案・検証方式を学習ライブラリで演習し習得する。
3	12/20(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 (購買管理)	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (納入指示、欠品過剰予測・納期管理・リードタイム設定法) ④業務フロー (購買計画－発注－納期管理) 2. 到達目標 手配の自動化の構築方法を事例演習を通じて習得する。 リードタイム等の手配自動化に必要な基準値の設定を習得する。
4	01/17(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 (工程管理)	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (作業指導、作業指示 作業標準・標準時間設定) ④業務フロー (製造計画－作業指図－実績) 2. 到達目標 事例演習を通じて、工程管理が「作業指導」であることを習得する。 前項目的のため「標準時間」の設定方法を実習で習得する。

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
5	01/24(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（在庫管理）	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（循環棚卸、出庫方式） ④業務フロー（出庫指図、循環棚卸） 2. 到達目標 在庫管理の目的は、在庫低減ではなく 在庫精度の維持を習得する。 前項目的のため、事例演習で在庫精度維持の 方式を習得する。
6	01/31(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 （部品表管理）	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（部品表の精度維持等） ④業務フロー（新規、設計変更、新旧切替） 2. 到達目標 部品表の100%精度維持を事例演習を通じて 習得する。 部品表の構築を学習ライブラリで習得する。
7	02/07(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 （受注出荷管理）	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（製造依頼と出荷指図） ④業務フロー（受注、出荷指図、生産計画） 2. 到達目標 受注情報が出荷指図、製造依頼の源泉である ことを学習ライブラリで習得する 受注情報の精度維持の重要性と維持方法を 事例演習で習得する。
8	02/14(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（品質管理）	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（検査方式・ライン化） ④業務フロー（検査指示・合否判定、遡及） 2. 到達目標 検査業務がライン業務であり、日程化の 重要性を事例演習で学ぶ。 購買・工程・出荷業務と品質管理の連携を 学習ライブラリで学ぶ。

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
9	02/21(月) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（原価管理）	1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（コスト低減と財務会計） ④業務フロー（原価計算と原価差異分析） 2. 到達目標 財務会計と原価管理、原価管理の課題を事例演習で習得する。 賃率（チャージ計算）、配賦の仕組みを学習ライブラリで、習得する。
10	02/28(月) 14:00 ～17:00	生産管理の I C T 事例 （学習ライブラリで疑似体験）	1. 内容 生産管理のICT機能とマン・マシンフローを学習ライブラリを使用して実機で演習 2. 到達目標 ICTと人の役割を疑似体験し、ICTによる生産管理システムの具体的イメージを持つ。
11	03/07(月) 14:00 ～17:00	分析・設計・定着化・効果測定技術の本当の技術を学ぶ（概要）	1. 内容 BPR構築の分析・設計・定着化・効果測定技術の概要を学ぶ 2. 到達目標 ①現状分析－基本設計－RFP作成－詳細設計－データ構築及び定着化技法の概要習得 ②現状分析の内、「個人別職務分析」を、分析ツールを使用して、受講者自身の分析を行い、有用性を実感する。
12	03/14(月) 14:00 ～17:00	管理技術 原理原則編のまとめ	1. 内容 ①成果発表 受講者ごとの、成果発表の実施 ②管理技術の「共通原則」講義 2. 到達目標 自社のBPR構築への管理技術の有用性をどのように社内に広めるか、BPR構築の開発計画を立案できる。